

第 2 回図書館基本計画策定委員会 議事要録

日 時 平成 30 年 4 月 26 日（木） 17 時 30 分開会 19 時 30 分閉会
場 所 中央図書館 3 階視聴覚ホール
出席者 委員 9 名
赤羽委員、大津委員、岡本委員、桂委員、金子委員、北本委員、福島委員、船崎委員、松山委員

事務局 11 名
鎌田図書館長、目澤武蔵野プレイス副館長、柏倉吉祥寺図書館長、
加藤課長補佐、前田課長補佐、森本課長補佐、秋庭係長、佐々木主事、須藤主事
山名様、高橋様（文化科学研究所）

- 内 容
- 1 議事
 - (1) 前回議事録の確認について（資料 1）
 - (2) 図書館の現状について（資料 2）
 - (3) 現行計画の施策等進捗状況・評価について（資料 3）
 - (4) 今後の進め方について
 - 2 報告事項
 - 3 その他

配布資料 次第
武蔵野市図書館運営委員会傍聴基準
第 1 回図書館基本計画策定委員会 議事要録（資料 1）
図書館の現状について（資料 2）
現行計画の施策等進捗状況評価について（資料 3）
武蔵野市立図書館 図書館事業評価（追加資料）
図書館基本計画策定委員会参考資料 [基礎調査報告書からの抜粋]（事前送付）

【事務局】

定刻となったので開会する。

本日、この委員会の傍聴基準を配布した。傍聴希望者があれば、これに基づき傍聴していただくことになるので、よろしくお願ひしたい。

次に資料を確認する。資料が不足している場合は申し出ていただきたい。

続いて、4 月に人事異動があったので、ご挨拶をさせていただきます。

【図書館長】

4月から図書館長として異動した。武蔵野市に入庁した年に以前の中央図書館の配属となり、昔の方式での電算なども経験した。平成26年度まで武蔵野プレイスの副館長の立場で図書館運営委員会にも参加しており、このたび図書館長ということで本計画の策定に関わることになり、図書館とは縁があると感じている。皆さまのお力をお借りしていい計画を作りたい。よろしくお願ひしたい。

【武蔵野プレイス副館長】

この4月から武蔵野プレイスの副館長を拝命した。よろしくお願ひしたい。

【事務局】

先月末、職務代理者であった毛利委員から、体調を崩して委員継続が難しくなったとの連絡があった。委員長と相談し、大変残念ではあるが体調のことなのでご意向を尊重して辞退ということで了承した。

職務代理者が欠員になるので、本策定委員会設置要綱の規定に基づいて委員長に再度指名をお願ひし、松山委員に職務代理者をお願ひすることとなった。

【職務代理者】

一昨日に急にお話をいただき、ご協力できることがあればと思ってお引き受けした。ご迷惑にならないように十分に務めたい。よろしくお願ひしたい。

【事務局】

このあとは議事となるので、委員長に進行をお願ひする。

★議事（1） 前回議事録の確認について

【図書館長】

資料1をお願ひしたい。

事前に送付しているが、前回委員会の議論を取りまとめた。

今回で、確認・承認をいただければ、終了後に公開したい。

【委員長】

本件について、何かあったら意見、質問を。

【委員】

10ページの上から3つ目の委員長の発言で、「が」がつながる部分があるので、ここは校正した方がよいのではないか。

【図書館長】

修正する。

他になれば、ご指摘の部分を修正のうえ公開する。

★議事（２） 図書館の現状について

【図書館長】

資料２について、委員には事前にお送りしていたので簡単に説明する。

１ ページ目。文部科学省の図書館設置基準に幅広い情報サービスの強化、児童生徒への読書支援強化、図書館運営の強化の４点が追加された。他の社会教育分野でも地域課題解決、地域貢献が重視されるようになっており、今回の計画検討においてもポイントになると思われる。

２ ページ目は図書館の動向についてまとめている。数値的なデータは、事前にお送りした参考資料の５ページから１０ページにある。まず概要であるが、図書館は国民の３１％が数ヶ月に一回利用する施設となった、貸出冊数は書籍販売部数を上回る、図書館運営では、直営正規職員中心の運営から非常勤職員が急激に増加、指定管理者制度も緩やかに拡大、市民協働などで図書サービスを超えた課題解決活動まで行っている施設もある、といった点を挙げられる。

（１）以降はその詳細説明である。まず、図書館の普及について。図書館数は３,３３１館、図書館の登録者数は３,１６０万人で人口の２７％。貸出冊数は６億６,０００万冊で書籍の販売部数を上回っている。

運営内容の変化については、専門職員の非常勤化が進行しており、専任職２８．５％に対して非常勤が５０．５％、指定管理者が１９．１％となっている。市区町村の指定管理者制度の導入率は１６．２％で、指定管理者のうち７３．８％が民間企業である。

図書館サービスの最新動向について。乳幼児・児童向けサービスでは、乳幼児向けのスペース作りが進行している。障害者サービスではマルチメディアデジターの拡大、貸出利便性の向上では駅構内での窓口展開、宅配サービスなどが進んでいる。

レファレンスサービスとしては、近隣古書店の在庫状況を含めた情報提供など、地域課題回復支援ではにぎわい拠点づくり、セカンドオフィス機能の提供、地域文化振興、文化発信などが見られる。

３ ページ目は、武蔵野市の図書館の状況についてまとめている。参考資料では２１ページ以降にあたる。武蔵野市では、特色のある図書館を展開している。蔵書数、貸出件数とも、全国の同規模自治体のなかでトップクラスである。登録者の半分弱は市外居住者で、図書館設置基準を示されたサービスはすでに実施している。とくに学校連携、障害

者対応などは充実している。

以下はその詳細説明である。市立図書館は蔵書数 92 万冊で、近隣市と比べると蔵書の絶対数・市民一人当たり冊数とも 1 位、同規模自治体と比べても全国第 4 位となっている。貸出件数は 250 万冊、市民一人当たり 16.6 冊で、これは同規模自治体で全国トップである。市民の 28.7%が有効登録をしており、各種の図書館サービスを展開している。

4 ページ目は読書の動向についてまとめている。長期的に見ると、書籍の読書率はほとんど変化していない。小中学生の不読率（1 年間に 1 度も本を読まない人の比率）は大きく低下してきたが、高校生の不読率は高いままとまっている。武蔵野市の読書率（1 年に 1 冊以上本を読む人の比率）は全国レベル以上であるが、高校生から 20 代の不読率は、全国傾向と同じく高い。市民の図書館利用意欲は高く、望んでいるのは「スペースを拡充し、本好きの居場所としてのより快適・便利になること」であった。

（1）以降はその詳細説明である。全国的には、書籍の読書率は 50%、雑誌については最盛期の 60%以上から 58%に低減。出版市場は、過去 20 年で書籍は 31.6%、雑誌は 61.7%減少となっている。子供の読書率は平成 13 年度の法整備以降に上昇し、不読率が小学生 4.0%、中学生 15.4%まで低下した。ただし、高校生の不読率は 57.1%と高い状況にある。

アンケート調査結果から武蔵野市の現状を見ると、読書率が書籍は 82.3%、雑誌が 62.6%であるが、やはり 10 代 20 代では本を読まない人が多い。電子書籍は 33.7%に利用経験があり、20 代 30 代では利用経験率が高い。図書館での電子書籍利用意向は 84.9%。調べものの手段としては、インターネットが 83.3%であるのに対して図書館は 8.2%であった。

同じくアンケート調査結果から市立図書館の利用動向を見ると、図書館利用率は 63.3%。満足度は、満足やや満足合わせて 87.4%と高かった。充実してほしいのはスペースの拡充 32.8%、蔵書の拡充 24.8%などで、今後の方向性としては、本好きのための居場所 87.6%、中高生の居場所 55.2%が高く、ボランティア意向は 48.2%であった。

【事務局】

資料 2 の 2 ページ、「2. 図書館の動向」の「(2) 運営内容の変化」の二つ目の「市町村での指定管理者～」のところで、二行目のカッコの中にある「美術館・博物館 16.2%」を「27.8%」に修正願いたい。

【委員長】

ご意見、質問があればどうぞ。

【委員】

この資料ではなく、事前送付の参考資料の中で質問がある。6ページにある「ビブリオバトル」「うちどく」の内容を説明してほしい。「うちどく」はひらがな表記でよいのか。

【委員長】

「ビブリオバトル」「うちどく」の説明をどうぞ。

【事務局】

「ビブリオバトル」は、参加者が自分の好きな本・人に薦めたい本を紹介し、聞いた人は誰が紹介したものを読みたくなったか投票することで順位を決めて競うイベントである。中学や高校でよく行われ、武蔵野市立図書館でも何度か実施している。

【委員】

それは、特定のグループ内での活動か、一般の人も参加できる図書館主催事業か。

【事務局】

武蔵野プレイスの主催事業である。

【図書館長】

ビブリオバトル協会などから講師を招いて実施している。

【委員長】

誰でも参加できるということでよいか。

【図書館長】

大人数ではないが、誰でも参加可能。市報で事前に参加者を募っている。

【委員長】

うちどくは。

【事務局】

「うちどく」(家読)は色々な主体が取り組んでおり、漢字で書く場合もあれば、柔らかい印象を与えるためにひらがなで書く場合もある。

【委員長】

家庭を巻き込むというのは、具体的にはどういうことか。

*うちどく（家読）とは、「家庭読書」の略語で、家族で同じ本を読む、相互に読み聞かせをする、疑問点を一緒に調べる、本を見て料理や工作をつくる、家族で読んだ本の感想を話し合うなどして、本を媒介に家族が同じ楽しい時間を過ごそうという取り組み。

【委員】

この「うちどく」という言葉はよく使われるのか。

【委員】

「うちどく」は東京では実施例が少ないが、九州など地方都市で盛んである。特に伊万里市民図書館などが有名。家庭で夜、テレビの時間はここまでにして30分読書の時間をつくりましょう等で、学校で普及している朝の読書の家庭版的なものである。ただ、家庭内の教育環境に対して行政がそこまで口を出すのはいかがなものかという考え方もあり、賛否両論ある。

【委員】

次に、中央図書館にあるグループ学習室2室の稼働率を教えてください。

また、参考資料56ページの下から3行目に「世界を旅させる活動であるブッククロッシング」とあるが、この内容を具体的に教えてください。

【委員長】

その他にも質問が多くあるか。

【委員】

他にもあるが量が多いので、今はとりあえずこの程度で結構である。

【事務局】

最新の28年度の集計は、稼働率は、グループ学習室1の利用が年間延べ398回である。

【委員】

貸出時間帯は3区分となっているが、それをそれぞれ1回ずつとした回数と考えて良いか。

【事務局】

委員ご指摘のとおりである。グループ学習室2は484回で、2室合計880回程度となっている。

ブッククロッシングについては、後ほどご説明する。

【委員長】

他にないか。

(これ以上の意見なし。)

また疑問や質問などが出てきたら言ってほしい。

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議事（3） 現行計画の施策と進捗状況、評価について

【図書館長】

資料3についてご説明する。参考資料の16～20ページの内容をまとめたものになっている。

1ページ目、現行計画の進捗状況について。個別の計画に対してA（十分に目標を達成し、一定の成果があった）、B（概ね目標を達成したが、不十分な点や今後の課題が残った）、C（不十分な点や課題が多く、目標達成できなかった）として図書館運営委員会による評価が行われ、多くがAでBがいくつか残った。全体としては、概ね順調に進捗しているが、若干の課題が残るものとして来館困難者や利用困難者へのさらなる対応、地域課題解決支援、レファレンスの改善、電子書籍サービスへの対応の4点がある、とまとめられる。

なお、図書館基本計画は10年計画であり、前期中長期目標に対して中間評価を行なったのが上記のABC評価で、本日、追加資料として配布したA3版のものは、後期の中長期目標とその評価である。

【委員長】

ご質問ある方どうぞ。

【委員】

レファレンスの改善という話題はどここの図書館でも必ず出てくるが、レファレンスは一般には全く認知されていないのが現実。ただ、インターネット上のQ&Aサービスがここまで普及していることを踏まえるとニーズはあるので、レファレンスが普及してもおかしくない。

レファレンスに関する考え方として、レファレンスの認知度を上げるのが先か、レフ

ファレンスサービスのレベルを向上・高度化させるのか先か、という二つがある。多く図書館関係者は、レファレンスサービスの向上・高度化を重視すると思う。私は、目の前の利用者から厳しい質問を浴び続けられない限りレファレンス能力の向上は望めず、逆に事前学習で何とかなる程度のレファレンスは、AIにあっさり乗り越えられるであろうと考えている。より高度な内容に応えられるようにならないと「レファレンスサービスが充実した図書館」と言いにくいという心情もわかるが、戦略的に考えると、レファレンスに関する広報を強化していく方がよいのではないかと思う。

そこで、武蔵野市としては、レファレンスに対してどちらを優先すべきと考えているのか伺いたい。どちらも大事という答えも有り得るが、ここは姿勢を明確にすることが必要であろう。市としての方針、戦略はどうか。

【図書館長】

まさにそういったことをこの策定委員会の中でご議論いただければと思っている。

参考資料を見ると、アンケート調査のレファレンスサービスに関する設問で、無回答が28.8%となっている。つまり、3割近い方がレファレンスサービスについてご存じないので答えようがないということではないだろうか。

一方で、市町村の司書がどこまで高度なレファレンスをするのを望まれるのか、それも考えなくてはならない。レフェラルサービスのような形で、専門能力のある図書館や関係機関につなぐといったことも考えられ、市民ニーズとあわせて議論いただければと思う。

【委員長】

武蔵野市で以前、市民にわかりにくい難解なカタカナ英語を無くそうと、わかりにくい用語20について市民に質問した。バリアフリーなど福祉のことはよく理解されており認知が上位にきたが、レファレンスは17位にとどまった。そう考えると、まずはレファレンスの存在を知らせていくことは重要かもしれない。

別の会議で遅れていた委員が到着したので、挨拶を。

【委員】

お話を中断して申し訳ない。4月から教育部長に就任した。10年前に図書館長に就任して2年間務めたが、その際に前回の図書館計画をまとめた経緯がある。皆様のお力をお貸し頂き、いい図書館になっていけばと思っている。よろしくお願ひしたい。

【委員長】

他にご意見ある方。

【委員】

図書館の現状（資料1）3ページ、市民アンケート調査結果において、今後の方向性に関して「本好きのための居場所」と回答した市民が87.6%で最も多いとある。この結果を見ると、市がレファレンスをどうしていこうとしているのか気になる。これは市民からの回答ではあるが、これだけ見ると、市は読書好きのためのスペースにすればよいと考えているようにも見える。

レファレンスについては、10年前の前の図書館基本計画でも何とかしていこうと計画されていたが、現在もやはり課題として残っている。そうすると、10年後も同じではと想像され、今こそ何とかすべきポイントであろう。市は検討を我々に委ねると言うが、アンケート調査結果がこうだから、で進んでいっていいのか。

現行計画の施策等進捗状況評価について（資料3）の2ページ「(7)市民の学びと課題解決の支援」を見ると、レファレンスに関わる評価がBになっているが、「成果」を見ると明らかなように、展示など多くの活動を行なっているのも事実。しかし、その活動が市民に伝わっていない。どう改善していけばいいのかなど、図書館内部で議論されているものがあるのか。あれば伺いたい。

【委員】

レファレンスといわれても図書館で何をしてくれるのかピンとこなかったが、参考資料に記載されている事例を見て、創業支援や他の機関と連携して中小企業の海外進出の支援を行うなどしている図書館があることを知って大変参考になった。

そこで、この場での議論のなかから、ビジネス支援、アート情報提供など具体的なテーマを決めて図書館で取り組むのはどうだろうか。方向性も決まるし支援やPRもやりやすいと思う。

図書館は本を提供するだけだと思っていたが、様々な事例を読んで、図書館がこれほど仕事の範囲を広げていることに、ある意味驚いた。

【委員長】

今後も議論を深めていくこととしたい。

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議事（4） 今後の進め方について

【図書館長】

第1回の策定委員会において事務局とも議論ができるようにというご意見をいただいたので、今日はテーブルを円形に配置し話しやすくするように工夫した。

今日までは資料説明の時間なども長くなってしまったが、次回からの2回は、理念や方向性など大きいテーマを決めて委員がキーワードを出し合うワークショップ的な会議

にすることを提案したい。

また、図書館基本計画は市民の皆様への計画なので、すでに実施したアンケート調査に加えて、市民と意見交換できるシンポジウムのような場を設定し、委員会の中の1回をそれに充てるのはどうだろうか。時期は8月か9月として、中間のまとめに意見を反映できればと思う。

【委員長】

図書館の方から二つの提案があった。一つは図書館のあるべき姿や将来ビジョンなどについて2回にわたって議論していくというもの、もう一つは公開シンポジウムを開催するというもの。意見があれば。

【委員】

この時期はみんなで議論をする、この時期はまとめていくという、最終に向けた検討スケジュールの全体像をざっくり出してもらえると考えやすい。

【委員長】

第1回委員会の資料4がそれにあたるものである。

【図書館長】

具体的には、9月頃にシンポジウムを開催して10月に作成する中間のまとめに反映し、11月、12月、1月にパブリックコメントを受けて修正し、最終的には2月末頃に完成というイメージをもっている。

【委員】

本日の資料3の3ページに9つの検討課題が挙げられているが、例えば、「今日はレファレンスサービスについて話した」「次回は、検討課題の(1)～(3)を検討する」など、わかりやすい形で提示もらえると助かる。理解を深めて参加したいので。

【図書館長】

そのことについて、この後に話したいと思っている。

【委員】

今日、中央図書館の書庫を初めて見学したが、事前に抱いてイメージと異なる、夢を広げてくれるような場所だった。このように、知らない場所を見ることで視野は広がるので、前回は話題に出たように、様々な図書館を視察しながら開催するのがよい。

【委員】

シンポジウムを開催するのは良いと思う。パブリックコメントが数多く集まるということは、市政に対して、市民がこれだけ関心を持っていると数で示すことにつながる。そのため、パブコメ前にシンポジウムを開催して市民の関心を高めて、より多くの意見が出るようになればよい。

武蔵野市民は、自分たちがいかに恵まれているか知らない。よそに引っ越してはじめて、図書館が少ないと驚く人が多い。非常に恵まれた環境にある、だからこそ納税の意義もあると伝えるためにも、シンポジウムをするのは意味がある。

開催の際には、市長にきてもらって話してもらうべき。ぜひそうしてほしい。武蔵野市は注目されているし、以前のシンポジウムも注目を集めたので、人は大勢来るはずだ。市民文化会館で開催してもよいくらいだと思う。

【委員長】

では、シンポジウムは開催ということで。事務局の方で内容を詰めてほしい。

進め方については、前回の資料4の順序にのっとり、5月、6月、7月の3回を基本的な方向性議論にあてるということか。

【図書館長】

とりあえず5月、6月の2回を想定している。

【委員長】

そのような進め方でよいか。

(意見なし)

では、そのように進めていく。

【図書館長】

次回に向けて、こんな内容を委員の間で話し合いたいといったテーマがあれば、出していただきたい。テーマが決まれば事務局で関連の資料を準備する。また、委員の皆様も事前に意見を考えておくことができると思う。

【委員長】

何か意見はあるか。

【委員】

レファレンスサービスの在り方について検討するのがよい。日本中の図書館が切り込めていない話題なので、ここで思い切った姿勢を示せば、さすが武蔵野市と言われるで

あろう。

電子書籍サービスの導入についても検討が必要であろう。電子書籍サービスの普及は進んでおらず、現状のものを前提とするなら、全く勧められるものではない。この10年ということで考えれば、市民に対して、全く役に立つものではないということを言い切った方がいいのではないか。武蔵野市がこんなものには税金は投下できないと言い切れば、追随する自治体は出てくるだろう。そうすれば、出版社も、図書館に購入してもらえる適切なパッケージについてもう少し考えるようになるのではないか。

高校生の不読対策はやっても無駄なので、諦めた方がいいと思う。いまの受験環境、家庭環境などを考えると、ここに力を入れるのは並大抵のことではない。

資料3の3ページ「2. 今後の検討課題(1)の地域課題解決」については、図書館、博物館、美術館などの主管が教育委員会から首長部局主管に切り替わるのは、もはや間違いないとみてよい。その際に、図書館が地域行政の中で何ができるのか、明確な姿勢に打ち出した方がいいのではないか。

(7) 図書館行政・運営形態のあり方について。武蔵野市は三多摩地域で指定管理者制度を導入している数少ない自治体である。武蔵野市は事業団が指定管理者であるが、その見解やメリットデメリット等、整理していく必要が出てくるのではないか。

資料3の3ページの課題はいずれも重要なテーマと思うので、次回以降、1議題30分から1時間程度議論をして、委員会としての一定の見解を整理していくのはどうか。

【委員】

委員が言っているのは、資料3の3ページを指しているのか。

【委員】

そのとおりである。ここに上がっていない課題がないか、他の委員の意見も聞きたい。

【委員】

発信ツールの基本としてのホームページについて話し合いたい。ワークショップ形式で気軽に話せるのであれば、市民委員の方々からも、今の使い方など含めて、いろいろなお話を聞きたいと思う。図書館のホームページはどこも似通っており、武蔵野市としての個性が見られないように感じる。また、コンテンツも不足しているのではないか。

【委員】

参考資料を読んで初めて知ったが、複本、図書館の貸本屋論について検討が必要では。武蔵野市の図書館予算は恵まれているので、人気本を大量に購入してタダで貸してくれればよいと思う市民もいるかもしれないが、同じ本を買うのはせいぜい10冊程度でよいのでは。30冊はちょっと多すぎではないか。また、文庫本を図書館に置くのもいかな

ものか。

市民サービス低下につながるかもしれないが、もっと貴重な本に予算を回すという考え方もある。反対する市民も多いかもしれないが、図書館サービスとは何かということにもつながるわかりやすいテーマなので、シンポジウムでも活発に意見が交わされると思う。

【委員】

市民と市民以外でサービスに差をつけるべきかというのもひとつの検討テーマではないか。これまで武蔵野市は、周辺市利用者に対して図書館サービスに大きな差をつけずにきた。しかし、武蔵野プレイスの来館者数は 200 万人に迫る勢いで、市民の中からは「(利用者が多くて市民が使いにくい面が出てきている。市外利用者もサービスに差がないというのは) ちょっと違うのではないか」という意見も聞かれる。市民にあまりにも影響が大きいのであれば考えなければいけない。

【委員長】

武蔵野プレイスは市外利用者の方が多いのでは。

【事務局】

市外利用者が 6 割だが、その中には武蔵野市在勤の人もいる。

【委員】

次回と次々回はワークショップを行い、資料 3 に課題としてあがっている 9 つのテーマと、いま話題に出たことの全てを議論するということか。

【図書館長】

今のお話を伺い、地域課題解決とレファレンスサービスは共通した議論となりそうなのでこれで 1 テーマ、その他に電子書籍、図書館行政・運営形態のあり方、ホームページ関係という感じであろうか。ホームページについては、デジタルということで、ホームページ以外も含めて検討するというところでどうか。

【事務局】

ホームページについては、図書館の情報提供・情報発信ということでよいか。

【委員】

デジタルについては、ホームページだけでなく電子図書など含めて、将来的には運営形態など全てに関わって来るのではないだろうか。

【委員】

電子書籍も含めて、デジタル全体でしっかり議論するのがいいのではないだろうか。

【委員】

あと、複本の問題についても。

【委員】

前回の図書館基本計画を見ると、最初に今後のあるべき図書館像を描いたうえで、個別の課題を検討している。今回は、個別の検討課題を先に議論してから、望ましい方向性の議論をすることになっている。議論の順番として、どちらが望ましいだろうか。

【委員長】

意見はあるか。

【委員】

図書館の場合、ゴールは多様な側面を持つので、最初から理想像を掲げるのは難しいのではないか。

個別の課題を検討すれば、あとから理想像がついてくると思う。

【委員長】

いま、出された意見でよろしいか。

(意見なし)

では、その方向性で進めていきたい。

他に何かあるか

(意見なし)

事務局からの報告事項はないか。

2 報告事項

【事務局】

先ほど質問があったブッククロッシングについて回答する。

自分が読み終えた本を友達に貸したり、他の人が本を取ってくれる場所に置いたりして、1冊の本が多くの人の手に渡っていく活動である。本には、ブッククロッシングのサイトで獲得したIDをつけ、読んだ人はブッククロッシングのサイトに感想を書き込んでいく。それにより、自分の本がいまどこにあり、読んだ人がどんな感想を持ったかがわかる。アメリカで始まり、日本でも行われるようになってきた。

【事務局】

吉祥寺図書館がリニューアル開館してから1週間たったので、取り急ぎの状況報告をしたい。

4月16日にオープンし、初日は3,000名以上、二日目は2,400名など大変多くの利用者があった。その後、平日は1,600人から1,800人程度、休日は3,000人程度が訪れた。

3 その他

【委員長】

その他 に移る。事務局から説明を。

【事務局】

策定委員会の会場については、できれば次回から他の図書館等を巡回する形にしたいと考えて調整している。正式には追ってお知らせしたい。

5月（第3回）・6月（第4回）の会議日程は前回決定したが、その次は7月～8月に1回（第5回）、9月の策定委員会（第6回）はシンポジウムにあてたい。シンポジウムについては土日実施がよいのではないかと考えている。まずは7～8月の第5回策定委員会の日程を決めていただきたい。

～日程調整～

【委員長】

第5回策定委員会は8月2日（木）とする。

【事務局】

時間帯は本日と同じ17時半開始を考えているが、別の図書館での開催となる場合は、会場の都合で30分程度前後する可能性がある。

9月のシンポジウムの会場は武蔵野プレイスを想定している。その空き状況や連休の状況などから開催日が限定されるが、ご都合はどうか。

～日程調整～

【委員長】

シンポジウム（第6回策定委員会）は9月8日（土）とする。

【図書館長】

シンポジウムの会場は武蔵野プレイス4階のフォーラムを考えている。70名から80名

程度は収容可能である。

【委員】

武蔵野プレイス5周年シンポジウムの際も多く集客があったので、100名程度は楽に集まるのではないかと。

【事務局】

フォーラムは机・椅子使用時で100名収容である。

【委員】

先着順などでもよいのではないかと。全員入ることを考えて大きい会場を借りるのはどうなのだろうか。

【図書館長】

もう少し大きい会場だと武蔵野スイングホールがあるが、せっかくなので図書館にて開催するという事に意義があるように思う。

【委員長】

9月8日（土）開催、会場は武蔵野プレイスだが変更の可能性もあり、ということで決定する。

今日の全体を通して、質問や提案などはあるか。

【委員】

これまで出てきたホームページやレファレンスサービスなどの話題の根本に、広報をどうするのかというテーマがあるのではないかと。武蔵野市はこちらから働きかける広報に控えめな印象がある。デジタルでの発信だけでなく、ポスター、街頭でのパフォーマンス、地域や学校に出向いて図書館を知ってもらう等アナログな活動も含めて、これからの武蔵野市らしい「図書館の知ってもらい方」があってもよいのではないかと。

【委員】

海外、特にアメリカではライブラリーアドボカシーといって、図書館であることを主張し、世の中に発信していく活動が盛んである。広報にとどまらず、図書館の存在意義まで含めてきちんと知らせて行くことが大事と思う。

【委員長】

その他、何かあるか。

(特になし)

以上で第2回図書館基本計画策定委員会を閉会する。